



令和5年度 宿利原小学校だより

# 宿っ子 10月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



## 秋も深まり

校長 濱田 直子



朝夕に急に肌寒さを感じるようになり、夕暮れもすっかり早くなりました。闇の中、美しく光る月や鈴虫やコオロギたちの音色に秋の深まりを感じます。この季節は一日の寒暖差はありますが、夏の暑さや冬の寒さの間で、とても心地よく過ごせる短い期間です。

さて、10月初めの全校朝会では「1年の振り返し」についての話をしました。新しい学年になり9月でちょうど半分が終わり、いよいよ後半に入ったこと、6年生にとっては、最後の小学生生活になることについてです。そして、めあてとしてもらっている

「自分からすすんで」を達成するためにどう生活していけばよいかについて考えてもらいました。また、本年度も後半になってきていることを自分自身や職員とも共有しました。

ところで、よく「やる気スイッチ」という言葉を聞きますが、親にとっても「どこにあるの？」と首をかしげることがあります。その答えの手助けとなるものに、「ヨコミネ式教育法」があります。プロゴルファー「横峯さくら」さんの叔父さんが提唱しているもので、全国的にも広く知られています。子どもが持っている4つの特徴を生かすと、「やる気のスイッチ」が入ることを次のように述べています。



### ステップ1：子どもは競争したがる

子どもは競争することが大好き。何でも1番が好きなのです。友達との競争を通してスイッチが入り成長していきます。

### ステップ2：子どもは真似したがる

子どもは真似の天才。様々なことを真似して覚えます。真似をするスイッチが入れば子どもの能力はぐんぐん伸びていきます。いいお手本を見せることです。

### ステップ3：子どもはちょっとだけ難しいことをしたがる

子どもは難しいことは嫌いだし、簡単なことには意欲を示しません。少しだけ難しいことをさせると、やる気のスイッチが入ります。

### ステップ4：子どもは認められたがる

子どもは認められると嬉しくなってやる気が高まります。「ほめる」と同時に「認める」ことで、やる気もアップします。

(ヨコミネ式教育法 4つのスイッチから引用)

内容は幼児教育ですが、小学生にも当てはまります。子どもの特徴をうまく生かすことで「やる気スイッチ」を入れてあげられるかもしれません。

